

## 獣害対策のポイント

### 個人対策から集落ぐるみでの対策へ

個人での獣害対策は1枚の田畑を守ることはできますが、野生動物が柵伝いに隣の農地へ入るため対応が後手にまわり、結果的に一団の農地を囲う結果となる等、費用・作業手間ともに非常にロスが多いといえます。

また、田畑を守るだけでは、畔の雑草や庭木すらも餌と捉える野生動物の対策としては不十分であり、集落への侵入を防止する根本的な解決には結びつきません。

- ・ 農業者の減少・高齢化が問題視されている中、持続可能な農業体系の確保には獣害対策は必要不可欠です。個々で対策を講じるのではなく、集落ぐるみで計画的に取り組むことが求められています。

### 心理柵から物理的侵入防止柵での対策へ

- ・ 個人申請で侵入防止柵を設置される方の多くが「電気柵」を選択されますが、電気柵は「心理柵」と表現されることもあり、一度電気ショックを経験した動物に「近寄りたくない」という心理的バリアを生じさせて侵入を防ぐものです。

しかし、管理不足などから、電気柵が野生動物に突破されるケースが頻発しています。

また、野生動物の侵入防止のポイントとして侵入防止柵を年間通して設置する「周年設置」があげられますが、電気柵の場合は降雪量の多い地域では電線が埋もれてしまうため効果が得られず冬季に設置することができません。

- ・ 年間通して餌を求めて集落に出没する野生動物から集落を守るためには、効果的な資材を用いた侵入防止柵を年間通して設置する必要があります。

## 野生動物は何故増えるのか？

- ・ 野生動物の数が増加しているのは出産率が上がっているのではなく、死亡率の低下が大きな原因である可能性が高いといわれています。

本来であれば冬は山の草が枯れ、食べることができないものは餓死していくのが自然の摂理ですが、未収穫の果実・くず野菜・ひこばえ・収穫残渣といった、「集落の魅力的な餌」が野生鳥獣の冬場の貴重な餌となり、死亡率の低下を防いでいるといわれています。

人間が何とも思わない畔の雑草ですら野生動物にはご馳走となるため、集落を冬の餌場として認識した野生動物は冬場以外でも集落へと来るようになってしまいます。

野生動物の数を増やさないためには、田畑だけではなく集落そのものへの侵入を防ぐ必要があるのです。

## 侵入防止柵の特徴

### 【電気柵】

〈長所〉

- ・ 軽量であり取り扱いやすい。
- ・ サルなど柵をよじ登る動物に対して有効であるため、物理的侵入防止柵と組み合わせることで高い効果が得られる。

〈短所〉

- ・ 動物によっては非常に低い位置に電線を張る必要があり、十分な性能を発揮するためには漏電対策として常に草刈りをしなければならない。
- ・ 電線が鼻や口唇に触れば十分な効果が得られるが、管理不足による電圧低下が生じると効果が著しく低下してしまう。電圧が低い電線に触れ、「しびれない」ことを学習した野生動物は、電線の存在に慣れ、いちいち鼻や口唇で確認しなくなるうえに、イノシシやシカは外皮や毛が電気を通しづらいため、電気ショックをほとんど受けずに農地に侵入してしまう。
- ・ 降雪量の多い地域では電線が埋もれてしまうため効果が得られず、冬季に設置することができない。
- ・ 1部分が寸断された時点で柵としての機能を成さなくなるため、広域で設置した場合は非常に高い頻度での検査・管理が求められる。
- ・ アスファルトやコンクリートは電気を通しづらく、野生動物の足が舗装道路の上にあると効果が弱くなってしまうため、道路沿いの農地への設置には向かない。
- ・ 電気線の劣化や本体の消耗などで長期間の設置を継続しづらい。

### 〈物理的侵入防止柵〉

#### 【長所】

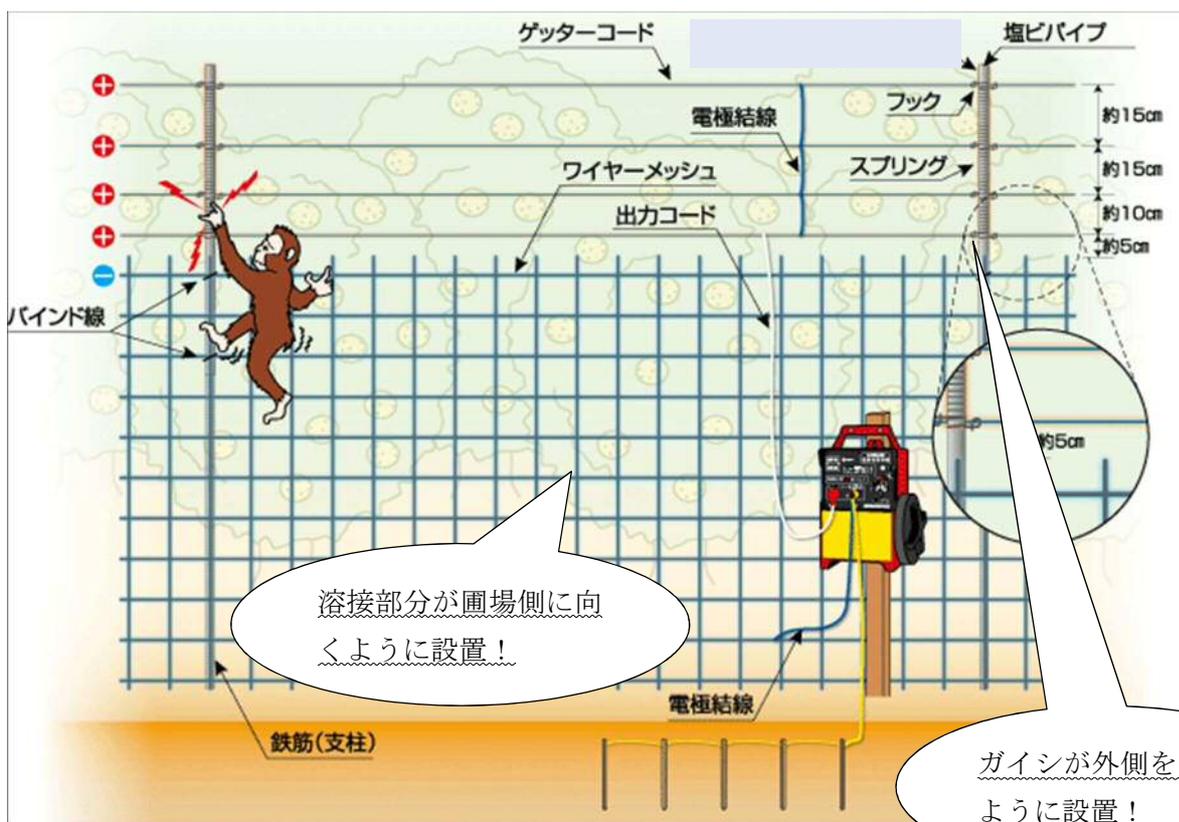
- ・ 設置後の管理手間が少ない。
- ・ 冬季でも設置可能であり、周年設置を実現できる。(ワイヤーメッシュ)
- ・ 電気柵ほどこまめな管理が必要ないために、頻繁に見回ることのできない場所や集落柵などの総延長の長い柵に向いている。
- ・ 物理的な「壁」となるため、単純に突破されづらい。
- ・ 資材によっては10年から15年間は継続して設置が可能。
- ・ イノシシ・ニホンジカについては、確実に侵入を阻止することが可能。

〈短所〉

- ・ 金属を用いた柵は重く、持ち運びや設置が大変。(ワイヤーメッシュ)
- ・ 電気柵と比べると高価。(ワイヤーメッシュ)
  - \* ネット柵であれば軽量かつ比較的安価。
  - \* ネット柵の場合はワイヤーが編みこまれた物を推奨。

## ワイヤーメッシュ柵やネット柵を用いた場合

- ・ 物理的な壁となるため、イノシシ・シカについては切れ目なく設置することでほぼ100%侵入を防ぐことが可能です。
- ・ シカは侵入防止柵をジャンプして農地に侵入すると思われがちですが、実際は柵の下をくぐり抜けたり、柵と柵の隙間をこじ開けて侵入するパターンがほとんどです。
- ・ イノシシについても1m程度の柵を飛び越える跳躍力がありますが、ほとんどがくぐり抜けて農地に侵入してきます。
- ・ 2mの高さの柵を設置したとしても、柵の下部に隙間があっては効果が得られません。
- ・ ネットやワイヤーメッシュ柵で対策を講じる場合は、支柱と支柱の間に隙間が生じないように注意が必要です。
- ・ サルについては物理柵だけでは柵をよじ登り突破されてしまうため、物理柵と電気柵を複合して設置する必要があります。



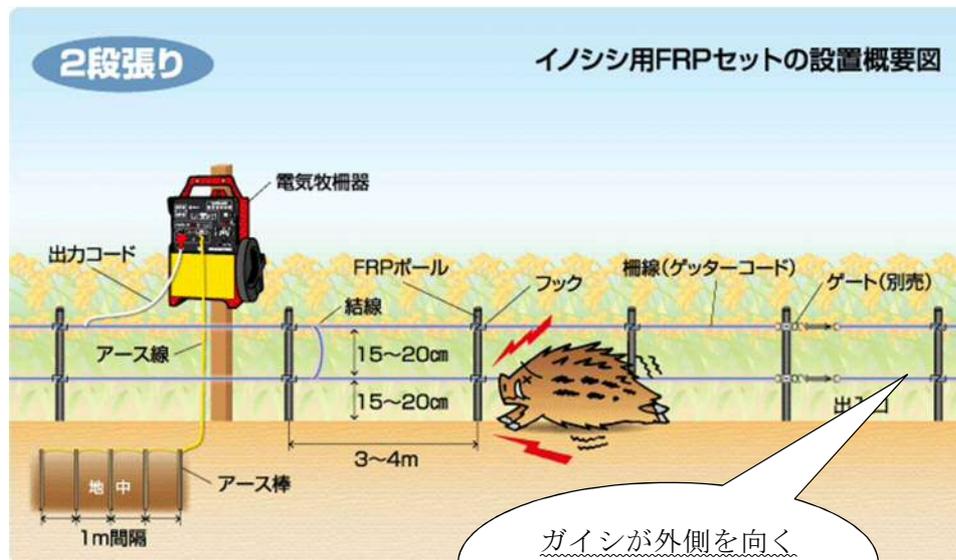
☆イノシシ・シカ・サルの3獣種に有効な侵入防止柵

☆イノシシ・シカだけなら上部の電柵は不要

## 電気柵を用いた場合

### イノシシ対策のポイント

- ・ イノシシの「鼻」は優秀で、周囲の匂いや感触を探る際に使われます。また、60kg以上の石を持ち上げたり穴を掘ることもできます。
- ・ 敏感な「鼻」の高さに合わせて柵線を張るのが効果的です。
- ・ 跳躍力にも優れたイノシシですが、くぐる方が得意です。
- ・ 以上の点から低めに柵線を張る必要がありますが、漏電を防ぐためにこまめな草刈りが必要不可欠です。補助対象にはなりません。草の管理には防草シートがおすすめです。



### ニホンジカ対策のポイント

- ・ イノシシやサルと違い、畔の雑草やひこばえですらシカにはご馳走になってしまいます。特に冬場には餌を求めて集落に侵入するため、農作物の無い季節だからと油断せず1年を通して侵入防止策を設置することが効果的です。また、一枚の農地を囲うだけでなく集落全体で対策を講じ、集落そのものに侵入させないことが一番の対策となります。

